

## 【草花の部屋】

### ホトトギス(ユリ科ホトトギス属 *Tricyrtis hirta*)

**和名**：ホトトギス **別名**：ユテンソウ（油点草）、トードリリー

**英名**：Japanese toad lily

ユリ目 山野草・多年草 **原産地**：日本

**花言葉**：永遠にあなたのもの、秘めた意志、永遠の若さ

**花の色**：白、紫、桃、黄



← 写真-1 ホトトギス

撮影日：2015年10月25日

撮影場所：飛鳥資料館～奈良・明日香村にて

撮影者：M さん



→ 写真-2 ホトトギス

撮影日：2015年10月25日

撮影場所：飛鳥資料館

～奈良・明日香村にて

撮影者：M さん

隣村？の談山神社から、峠を越えて石舞台古墳まで歩いたついでに、飛鳥資料館に立ち寄りしました。隣には、水時計の遺跡も有ります。館内の見学はパス。園内散策中に見かけました。茎が湾曲や下垂して花を咲かせる姿は風情があり、山野草として人気の高い植物です。

斑点のある花びらが、ホトトギス(鳥)のおなかにある模様と似ているためこの名前があり、若葉に油染みのような斑点があるので、ユテンソウ(油点草)の別名があるそうです。ホトトギスは、現在までに19種ほどが確認されており、そのうち10種が日本で自生。原産国も日本や台湾などアジアの花のイメージが強いホトトギスですが、様々な色や模様を持った品種があるそうです。

### <ちょっと一言>

#### ホトトギスの品種

- ・ホトトギス [T. hirta]

本来、単にホトトギスというと、本種を指し(広い意味では属全体を指す通称)。本州の南関東より西、四国や九州の山野の日陰に自生している種です。学名のヒルタは「短い剛毛のある」という意味で株全体に粗毛が生えているところに由来するそうです。

- ・キバナホトトギス [T. flava]

主に九州に自生する品種です。花は黄色に紫色の斑点が入ります。

- ・ジョウロホトトギス [T. fmacrantha]

主に宮崎県、高知県に分布します。山野の崖に垂れ下がって自生します。冷涼な気候を好み乾燥に弱いのでホトトギスの中では栽培が一番難しい部類にはいるようです。下垂して黄色い花をつける姿が上品で人気があるそうです。

- ・キバナノツキヌキホトトギス [T. perfoliata]

宮崎県固有の品種。葉が茎をぐるっと抱き込んでくっついていて、それが、茎が葉を貫いているように見えるので「ツキヌキ」の名前が付けられたそうです。花は黄色で垂れ下がって育ちます

- ・タイワンホトトギス [T. formosana]

台湾原産。ホトトギスの中ではやや強光線に耐え性質も丈夫です。庭植でもよく育ちます。その強健な性質を活かし、交配によって様々な品種を作り出す元ともなったそうです。代表的な品種に東雲(しのめ)、藤娘などあるそうです。